

令和 6 年度

事業計画

人間を救うのは、人間だ。

（日本赤十字社スローガン）



日本赤十字社 秋田県支部
Japanese Red Cross Society

○日本赤十字社長期ビジョン○

目指す姿と長期戦略 ～創立 150 年に向けて～

日本赤十字社は、1877 年の博愛社創設時より、戦時救護、災害救護をはじめ、医療事業や血液事業、社会福祉事業など、時代のニーズに応え様々な活動を展開し社会的役割を果たしてきた。

しかしながら、創立 140 年が経過し、人口構造の変化・グローバル化・ICT 化・気候変動等が進み、国内外の社会環境は創立時から大きく変化している。今後も「人間のいのちと健康、尊厳を守る」という赤十字の使命を果たすためには、時代と共に変化する社会の課題やニーズに柔軟に対応し、新たなチャレンジを続けていく必要がある。

日本赤十字社では今後重点的に取り組んでいく社会課題を明確にし、2027 年に迎える 創立 150 周年に向けた「新たなステージへの行動指針」並びに日本赤十字社が**目指す姿**とそれを達成するための**長期戦略**を「日本赤十字社長期ビジョン」として策定している。

また、これらの実現・達成を目指し、3 年ごとの中期事業計画を策定しており、令和 5～7 年度は、「国難級の大規模災害に対する平時から備え」と変化する社会課題への対応として「新興感染症への対応」「気候変動に関する啓発の促進」を主要テーマとして位置づけ、重点的に取り組んでいくこととしている。

「日本赤十字社 長期ビジョン」全体像

日本赤十字社が
取り組む社会課題

- 災害や紛争から人々が守られる社会づくり
- 人々の健康・福祉を支える地域づくり
- 互いを思いやり、助け合い、尊重し合う社会づくり

目 指 す 姿

国内外における人道支援活動の“要”となり、
わが国の地域医療・血液事業の中核を担う赤十字

新たなステージへの行動指針

- 支援を受ける側に立った想像力の発揮
- 事業間・施設間の連携による相乗効果の発揮
- 先進技術を生かした事業展開
- 「選択と集中」の徹底
- 赤十字ネットワークを活用した事業推進
- 行政や関係団体、企業、大学等との連携強化
- ビッグデータ等を活用した事業推進

長 期 戦 略

一 事 業 戦 略 一

災害や紛争時における
支援の充実とレジリエンスの強化

超少子高齢化における
地域の健康・安全な生活の追求

多様化が進む社会における
人道の輪の拡大

一 運 動 基 盤 強 化 戦 略 一

会員の赤十字運動への参画促進

奉仕団等ボランティア主体の
活動の拡充

国際赤十字との更なる協働

令和6年度事業 重点推進事項

赤十字の理念である「人道」を達成するために実施する各種事業は、多くの方々からのボランティア参加と活動資金へのご協力によって支えられている。

そのことから、赤十字運動への賛同の輪を一層広げるため、以下の事項に重点的に取り組む。

1 来たる大規模災害に備えて

近い将来に発生が予測されている首都直下地震や北海道から東北地方の太平洋沿岸を震源域とする日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震などの国難級の大規模災害から人々のいのちを守り、その被害を最小限に抑えるための備えとして、日赤の総合力を発揮した事業を展開する。

- (1) 迅速・的確な医療救護活動の実施に向けて
研修・訓練などを通じて、救護員及び防災ボランティアの要員の確保を図るとともに、実践力の向上を図る。
- (2) 「自助」・「共助」の向上への貢献
地域住民自らが災害に対応できるよう、防災セミナーや避難生活支援講習などの普及に努める。
- (3) 子どもたちへの「いのちの大切さ」の普及啓発
防災教育教材「まもるいのち ひろめるぼうさい」の積極的な活用を促進する。

2 赤十字奉仕団が活動しやすい環境の整備

赤十字思想の普及や会員の増強は、赤十字奉仕団の主体的な社会活動によるところが大きいと、その活動への支援を行う。

- (1) 地域包括ケアシステムへの貢献
誰もがいつまでも健康で元気に暮らすことができるよう、フレイル予防への取り組みを支援する。
- (2) 奉仕団活動の活性化
他の奉仕団が実施している活動の情報提供や相互の交流事業を積極的に行う。
- (3) 活動助成金の創設
奉仕団が地域に根差した活動が展開できるよう、新たな活動助成金を創設する。

3 多様な寄付機会の提供と情報発信による活動資金の確保

各種事業を持続的・安定的に実施できる必要な財源を確保するため、新たな取組みにチャレンジする。

- (1) クレジットカードや口座振替寄付データを活用した活動資金募集戦略の策定
クレジットカードや口座振替寄付者のデータを活用して活動資金募集戦略を策定し、寄付者にとって利便性の高い寄付方法の周知を行うほか、効率的なダイレクトメールを実施するなど、確保対策を強化する。
- (2) 戸別訪問での活動資金募集が難しい会員へのアプローチ
戸別訪問募集をしてくださる協賛委員が不足している地域を調査し、地区分区と連携しながら新たな募集のあり方を検討する。また、会員加入率が低い高齢者施設やマンション、新興住宅街等へのアプローチ方法も併せて検討する。
- (3) 遺贈・相続財産寄付の推進体制の整備
遺贈・相続財産寄付に関する啓発（セミナーの開催、チラシの配布）や受付窓口の周知などの広報を進める。
また、銀行や司法書士会等との連携を強化し、相談や申し出に迅速かつ適切に対応できる体制を整備する。
- (4) 積極的な広報活動の展開
赤十字活動を広く知ってもらうため、Web や SNS の活用など、時代に即した広報展開を継続して実施する。

4 ICTの活用による業務効率化の推進

情報とコミュニケーションに関連する技術を利用して、事業運営における効率化を図る。

- (1) 赤十字事業の新たな情報発信
定期的に発行する会員誌等については、希望に応じて紙媒体から電子媒体へ段階的に移行するなど、情報発信を行う新たなツールを検討する。
- (2) 業務効率化の推進
データベースや情報共有サイト、決裁システム等を活用して、業務の効率化を推進する。

目 次

1	赤十字運動の推進-----	1
2	広報活動の強化-----	2
3	災害救護活動の強化-----	3
4	赤十字講習の普及-----	4
5	赤十字奉仕団等の育成-----	5
6	青少年赤十字（J R C）の育成-----	7
7	国際活動-----	8
	[参考：令和6年度一般会計歳入歳出予算(秋田県支部)]	9
8	医療事業（秋田赤十字病院）-----	10
9	血液事業（秋田県赤十字血液センター）-----	12
10	社会福祉事業（秋田赤十字乳児院）-----	14
11	評議員会の開催・監査の実施-----	15

参考資料

別紙 1	会員数・活動資金額の目標数-----	16
別紙 2	視聴覚教材一覧-----	17
別紙 3	防災セミナー及び赤十字講習一覧 -----	19

1 赤十字運動の推進

社員（会員）をもって組織するという日本赤十字社法の趣旨に基づき、地区・分区の協賛委員、地域赤十字奉仕団などの理解と協力を得ながら、価値観の多様化する社会にあっても、普遍の「人道」を基調とする赤十字思想の普及と財政基盤の強化を目的に、「赤十字運動」を推進する。

（１）目標会員数及び活動資金額の設定

（別紙１ 会員数・活動資金額の目標数）

（２）災害義援金・海外救援金協力者への協力依頼

（３）活動資金未協力法人への協力依頼

（４）会員に対する情報提供

（５）全国赤十字大会への参会・本社見学

（６）遺贈・相続財産寄付に関する情報提供

重点事業

（７）地区・分区との連携強化

- ・日赤地区・分区事務担当者会議
- ・日赤地区・分区新任事務担当者研修会
- ・日赤地区・分区事業実態調査
- ・社業振興検討会



地域のイベントで赤十字思想を普及する
赤十字奉仕団



赤十字奉仕団委員長並びに
地区・分区事務担当者会議の様子



赤十字に功労のあった方々が全国赤十字大会に参会

2 広報活動の強化

県民への赤十字活動の周知を図るとともに、理解と協力が得られるよう次のことを重点に実施する。

- (1) 赤十字月間イベントの開催等
 - ・ 赤十字キッズタウン2024
 - ・ 赤十字レッドライトアップ
- (2) マスコミを通じての広報
 - ・ テレビCM・ラジオCM等
- (3) 広報紙等の配布
 - ・ 赤十字NEWS
 - ・ パンフレット
 - ・ 通年用ポスター
 - ・ 毎戸チラシ
 - ・ 支部機関紙「赤十字秋田」
 - ・ 全国統一会員誌「Cross com-BOOK」
- (4) 広報資材の活用
 - ・ 映画「別れの乳房～97歳赤十字従軍看護婦の証言」
 - ・ 映像「赤十字この一年」
 - ・ 事業紹介パネルの貸し出し
(別紙2 視聴覚教材一覧)
- (5) 事業等を通じての広報
 - ・ 講習会、会議、研修会での広報
 - ・ 地区・分区主催の協議会・研修会への出席
 - ・ 地区・分区と共催イベントの開催
- (6) インターネット等の活用 **重点事項**
 - ・ ホームページ
 - ・ YouTube
 - ・ X (旧 Twitter)
 - ・ Instagram



子ども対象のお仕事体験イベントを開催
(赤十字キッズタウン)



秋田市のポートタワー「セリオン」をライトアップ
(赤十字レッドライトアップ)

3 災害救護活動の強化

災害の被災者に温かい愛の手を差し延べる災害救護活動は、赤十字本来の使命に根ざした重要な活動である。県内における各種災害をはじめ、近年増加傾向にある大規模広域災害に対しても、適確な救護活動を展開し得る救護体制の充実強化に努める。

(1) 救護班等の編成・派遣

- ・医療救護班を9個班
- ・災害医療コーディネートチームを3チーム
- ・こころのケア班 適宜

(2) 救護看護師の養成

- ・秋田赤十字病院の看護師を対象とした救護員としての赤十字看護師研修
- ・日本赤十字秋田看護大学の学生対象の赤十字講習

(3) 救護訓練

- ・全国赤十字救護班研修
- ・県や市などが主催する防災訓練
- ・国難級の大規模災害を想定した救護員育成体系に基づく研修 **重点事項**
- ・こころのケア指導者へのフォローアップ及び救護員への研修
- ・日赤第1ブロック合同災害救護訓練

(4) 救護資器材の整備

【地区分区への寄贈配備】

- ・災害救援車2台
- ・AED5台
- ・ワンタッチテント3張
- ・救護資器材倉庫1棟
- ・避難所用防災テント37張
- ・ポータブル電源9台
- ・避難所用簡易ベッド15台
- ・寝袋21箱

【支部装備】

- ・トラック 1台
- ・携帯型業務用無線 4機 ほか

(5) 救援物資の備蓄

- ・毛布
- ・緊急セット
- ・安眠セット
- ・タオルケット

(6) 災害見舞金の交付

(7) 公的行事等における臨時救護

(8) 防災ボランティアの育成

(9) 災害対策活動 **重点事項**

- ・「赤十字防災セミナー」の開催

(別紙3 防災セミナー及び赤十字講習一覧)



被災地に向けて救護班が出発(令和6年能登半島地震)



避難所に救援物資を配布

4 赤十字講習の普及

救急法等の講習会は、地域赤十字奉仕団をはじめ社会福祉協議会、町内会や自主防災組織、学校、企業等の活動としても取り上げられ、毎年多くの開催希望がある。

支部職員のほか指導員有資格者の協力を得て、要請に応えるよう努める。

(1) 救急法講習

心肺蘇生やAEDの使用法を含む一次救命処置（BLS）・包帯法や固定法・搬送法など、医療を受ける前の正しい救命・応急手当と事故防止の知識を習得する。

- ・基礎講習
- ・救急員養成講習
- ・短期講習

(2) 健康生活支援講習

自分自身の健康維持について学び、元気に暮らすために社会参加を考える。

また、避難所生活で役立つ知識・技術を習得する。

- ・支援員養成講習
- ・短期講習
- ・避難生活支援講習（高齢者）

(3) 水上安全法講習

溺れた人の救助法及び水の事故を防ぐための知識や技術などを習得する。

- ・救助員Ⅰ養成講習
- ・短期講習
- ・指導員養成講習

(4) 幼児安全法講習

子どもの心肺蘇生やAEDの使用法を含む一次救命処置（PBLIS）・気道異物除去など救命・応急手当を習得する。

子どもに多い事故の予防・病気の手当の知識などを習得する。

また、避難所生活で子どもに役立つ知識・技術を習得する。

- ・支援員養成講習
- ・短期講習
- ・避難生活支援講習（子ども）

(5) 各講習における ICT 化の推進

重点事項

参集型・対面型の取り組みができない環境下においてオンライン講習を積極的に実施する等 ICT 化の推進を図る。



水上安全法 救助員Ⅰ養成講習



健康生活支援講習 短期講習

5 赤十字奉仕団等の育成

日本赤十字社は、赤十字の基本理念に基づいて行動する多数のボランティアによりその事業活動が支えられている。

市町村の区域によって結成されている地域赤十字奉仕団及び青年並びに特殊技能者で組織する特別赤十字奉仕団が、赤十字事業の推進、ひいては地域福祉の向上に貢献できるようその活動を援助する。

(1) 各種会議・研修会の開催及び派遣

- ・赤十字奉仕団秋田県支部委員会
- ・奉仕団委員長会議
- ・奉仕団リーダーシップ研修会

(2) 地域奉仕団

全県にわたって各種奉仕活動を展開し、地域貢献している地域奉仕団の資質の向上及び活動の充実に努める。

- ・単位奉仕団研修
- ・地域包括ケアシステムへの貢献の推進

重点事項

- ・フレイル予防サポーター養成講座
- ・フレイル予防サポーターの活動支援
- ・地域に根差した活動への財政支援

重点事項

(3) 青年奉仕団

赤十字事業の実行隊的な役割を期待される青年奉仕団の資質の向上及び活動の充実を図るとともに、将来の赤十字を担う人材の養成に努める。

- ・基礎研修会
- ・リーダーシップ研修会
- ・日赤第1ブロック協議会



北秋田市森吉赤十字奉仕団によるフレイル予防講座



秋田県大雨災害での秋田市赤十字奉仕団による炊き出し



地域・青年奉仕団が共同で街頭募金活動

(4) 点訳奉仕団

初心者対象の点訳講習会の開催や、JRC 加盟校での児童対象の点訳講習会、団員研修会などに必要な援助を行う。

(5) 芸能奉仕団

奉仕活動依頼先との連絡調整等に必要な援助を行う。

(6) アマチュア無線奉仕団

災害時の活動に備えて県内で行う各種訓練への参加を求めるほか、県内外との通信訓練、その他団の運営に必要な援助を行う。

(7) 水上安全法奉仕団・救急法奉仕団

講習会の講師として協力を求めるとともに、技術研修を行い資質の向上に努める。

(8) 災害救護奉仕団

災害時の活動に備えて県内で行う各種訓練への参加を求める。

(9) 青少年赤十字賛助奉仕団

青少年赤十字への加盟促進等について協力を求める。

- ・ 青少年赤十字賛助奉仕団理事会・総会
- ・ 青少年赤十字賛助奉仕団研修会

(10) 赤十字有功会

赤十字有功章受章者の有志により組織されている「秋田県赤十字有功会」の事務局として、会の円滑な運営と活動の推進に努める。



点訳奉仕団による点訳体験



芸能奉仕団の民謡披露



救急法奉仕団の団員研修

6. 青少年赤十字（JRC）の育成

青少年赤十字は、青少年が赤十字の精神に基づいて、世界の平和と福祉に貢献できる望ましい人格と精神を形成することを目的に、教師等を指導者として学校（幼稚園・保育所・こども園を含む）に組織されているものである。加盟校並びにメンバーの増強に努め、青少年赤十字活動の充実強化のため、関係者の協力、支援を得て次の活動を推進する。

- （１）各種会議・研修会の開催
 - ・ 青少年赤十字指導者協議会理事会
 - ・ 青少年赤十字指導者協議会幹事会
 - ・ 青少年赤十字指導者研修会
 - ・ 青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター（中高生・小学生対象）
- （２）地区指導者協議会組織の充実強化を図る。
- （３）会議等への派遣
 - ・ 青少年赤十字全国指導者協議会総会・研修会
 - ・ 青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター指導者養成講習会
 - ・ 第１ブロック支部青少年赤十字指導者研究会
 - ・ 青少年赤十字指導者中央講習会
 - ・ 指導主事対象青少年赤十字研究会
 - ・ 青少年赤十字スタディー・センター
 - ・ 第１ブロック支部管内の高等学校青少年赤十字交流会
- （４）青少年赤十字活動の充実に資することを目指し、研究推進校を委嘱する。
- （５）赤十字講習の実施を積極的に呼びかける。
- （６）青少年赤十字海外支援事業（青少年赤十字活動資金を使用した国際支援事業）への理解・啓発を図る。

- （７）高等学校青少年赤十字協議会（全県の加盟高校生メンバーの連絡組織）活動の充実強化を図る。
- （８）青少年赤十字防災教育プログラム「まもるいのち ひろめるぼうさい」の活用を積極的に推進する。

重点事項



リーダーシップ・トレーニング・センターでの炊き出し体験



第1ブロック支部管内の高等学校青少年赤十字交流会

7. 国際活動

日本赤十字社が実施する国際救援及び開発協力の諸活動に、秋田県支部では次のとおり参加する。

また、世界中で武力紛争が絶えない社会情勢を鑑み、国際人道法の推進機関の一員として、団体等からの要望に応じて「国際人道法普及セミナー」を開催し、国際人道法のみならず赤十字の基本原則等を普及啓発し、赤十字への理解者を増やす取り組みとする。

(1) 救急法普及支援事業

ラオス赤十字社が実施する「救急法普及事業」に対し、財政支援や指導員派遣をする。

(2) 青少年赤十字海外支援事業

バヌアツ赤十字社が実施する防災教育事業に対し、財政支援や指導者派遣を実施する。

(3) ルワンダ気候変動等レジリエンス強化事業

ルワンダ赤十字社と連携し、気候変動の影響と考えられる災害、感染症や貧困などの社会課題に対し、レジリエンスを強化させるための財政支援を実施する。

(4) アフガニスタン気候変動対策事業

アフガニスタン赤新月社が主体となって行う気候変動による自然災害へ対応するための事業への財政支援を実施する。

(5) 国際活動への要員派遣

国際赤十字からの要請に基づき実施する国際活動（緊急救援、開発協力、復興支援その他）へ、登録している国際救援・開発協力要員（支部職員・病院職員）を積極的に派遣する。



ラオス赤十字社の救急法普及事業



支部職員をルワンダに派遣



現地の高校生を対象に救急法を実施

[参考：令和6年度一般会計歳入歳出予算（秋田県支部）]

歳入

単位：千円

科 目	令和6年度	令和5年度	適 用
社 資 収 入	160,000	161,000	
一般社資収入	140,000	143,000	個人からの活動資金収入
法人社資収入	20,000	18,000	法人からの活動資金収入
委託金等収入	330	330	赤十字講習会委託金収入
補助金及び 交付金収入	7,570	7,841	本社からの管理経費調整交付金等
雑 収 入	3,614	3,151	赤十字講習会等負担金収入
前年度繰越金	10,660	15,499	前年度繰越金
合 計	182,174	187,821	

歳出

単位：千円

科 目	令和6年度	令和5年度	適 用
災害救護事業費	28,544	28,980	災害救護訓練費、災害救護装備整備費 災害見舞金
社 会 活 動 費	33,667	33,934	各種講習普及費、赤十字奉仕団育成費 青少年赤十字育成費
国 際 活 動 費	528	716	国際開発協力事業費
指定事業地方振興費	2,000	3,000	地区分区配備資器材整備費
地区分区交付金支出	21,726	22,330	地区分区事務費・事業費交付金
社 業 振 興 費	31,861	31,361	社資募集及び会員管理費等 広報活動費
基盤整備交付金 ・補助金支出	30	30	赤十字看護師同方会交付金
積 立 金 支 出	8,295	11,977	災害等資金 退職給与資金特別会計積立金
総 務 管 理 費	28,195	28,909	評議員会運営費、総務費、業務費 社会保険料等
資産取得及び 資 産 管 理 費	2,278	2,244	施設維持費
本社送納金支出	22,650	21,750	本社送納金
予 備 費	2,400	2,590	予備費
合 計	182,174	187,821	

※赤十字病院、血液センター、社会福祉施設ではそれぞれの特別会計の中で運営しています。

8. 医療事業(秋田赤十字病院)

(1) 指針

秋田県の中核病院として高度で安全な医療の提供に努めるとともに、赤十字の使命である災害医療救護にも積極的に取り組み、地域との厚い信頼関係を築く。

(2) 具体的施策

ア. 質の高い医療の提供

(ア) 秋田県の政策医療への取り組み強化

- ・救命救急センターの充実
- ・ドクターヘリ運航体制の充実
- ・総合周産期母子医療センターの充実
- ・神経病センターの充実

(イ) 新型コロナウイルス感染重症者の治療

(ウ) 地域医療支援病院・紹介受診重点医療機関としての機能強化

- ・地域医療連携の推進
- ・他医療機関との役割分担・連携を強化し、適切な医療提供の円滑化を図る
- ・地域の医療従事者に対する研修の推進

(エ) がん診療への取り組み強化

- ・地域がん診療連携拠点病院としての機能充実

(オ) 院内センターの充実

- ・消化器病、腎、人工関節、超音波、各センターの充実
- ・患者支援センター機能の充実

(カ) 健診事業の推進

- ・疾病予防・受診喚起等の活動強化

ウ. 病院経営の健全化

(ア) 収入の確保

- ・救急医療体制、地域医療連携強化による新入院患者の確保
- ・紹介率、逆紹介率の向上
- ・病床の効率的運用

(イ) 支出の削減

- ・後発医薬品の導入促進
- ・診療材料、消耗品等の適正使用と在庫管理
- ・委託業務内容の最適化（契約内容、業者選定など）
- ・適正な人員配置

(ウ) 人材の確保

- ・不足している呼吸器内科医、麻酔科医、救急科医、耳鼻咽喉科医の確保

(エ) 勤務環境改善

- ・院内保育所の運営

(オ) 次代を担う医療スタッフの育成

- ・職員教育体制の充実
- ・内部研修の充実と外部研修への積極的な参加

イ. 災害医療救護体制の充実

(ア) 多数傷病者受入訓練等の定期的な実施

(イ) 各種医療救護訓練への計画的な人員の派遣

エ. 地域医療への貢献

(ア) 他医療機関等との連携と役割分担

(イ) 医師不足地域への応援医師派遣

(ウ) 県内で施行されていない乳房再建手術や肥満手術の実施

(エ) 特定行為看護師の養成

(オ) 予防接種センターからの情報提供とワクチン接種

なお、病床数及び予想患者数は次表のとおりである。

令和6年度予想患者数

区 分	一 般	救命救急	周 産 期	神 経 病	合 計
病 床 数	344 床	50 床	56 床	30 床	480 床
入院患者数	106,234 人	11,643 人	10,649 人	9,675 人	138,201 人
(一日平均)	291 人	32 人	29 人	27 人	379 人
外来患者数	169,991 人	13,316 人			183,307 人
(一日平均)	702 人	55 人			758 人



ドクターヘリ



多数傷病者受入訓練



特定行為看護師の養成

9. 血液事業（秋田県赤十字血液センター）

秋田県内で必要とする安全な輸血用血液製剤を安定的に供給するとともに、血漿分画製剤の国内自給の達成に向けて、秋田県に割り当てられた献血者数 35,267 人を確保する。

このため、県・市町村並びに関係団体と緊密な連携を保ち、献血思想の普及及び献血協力団体の拡充を図り、400mL 献血・成分献血の推進強化を図る。

（１）献血目標

献血者 35,267 人

献血量 15,821 L

献血種類別献血目標（単位：人）

200mL 献血	561
400mL 献血	23,305
成分献血	11,401
計	35,267

受入施設別献血目標（単位：人）

区分	200mL 献血	400mL 献血	成分献血	計
献血バス	428	17,848		18,276
血液センター	49	2,027	4,672	6,748
中通出張所	84	3,430	6,729	10,243
計	561	23,305	11,401	35,267

（２）供給目標

血液製剤別供給目標（単位：本）

赤血球製剤	50,968
血漿製剤	12,280
血小板製剤	70,910
計	134,158

※「単位：本」は 200mL 献血由来換算

（３）血漿分画製剤原料血漿確保割当量の確保

日本赤十字社東北ブロック血液センターから割り当てられた原料血漿 9,999 L の確保に努める。

（４）街頭献血キャンペーンの実施

地域で開催される各種イベントや、集客数の多いショッピングセンター等の会場において、街頭献血キャンペーンを実施し、必要な献血者を確保する。

(5) 献血講話による献血思想の普及と啓発

秋田県内の学校や各団体を対象に献血セミナーを実施し、献血思想の普及と啓発に努める。

(6) 複数回献血者の推進

献血 Web 会員サービス（ラブラッド）の会員及び献血登録者に対して献血協力依頼や情報提供を積極的に行い、複数回献血者の推進に努める。



赤十字キッズタウンでの採血体験



献血セミナー



献血バスでの献血

10. 社会福祉事業(秋田赤十字乳児院)

様々な事情で家庭での養育が困難な乳幼児をお預かりし養育する県内唯一の乳児院である。当院の理念である、「赤十字精神のもとに、子どもたちの権利擁護と最善の利益を守り、心身ともに健やかな成長を図ることのできる愛情のこもった養育環境を提供する」ため、次の事業に取り組んでいく。

なお、入所児数の減少に伴い定員を 30 名から 24 名に変更する。

(1) 質の高い養育の提供

- ア 養育の質の確保及び向上
 - イ 子どもたちの権利擁護と最善の利益の保障
 - ウ 被虐待児・病児・障害児への対応ができる専門的ケアの充実
 - エ 全室小規模グループケア化による家庭的養育の推進
(各室 6 名定員、全 4 室)
- ### (2) 保護者及び里親への支援の強化
- ア 家庭支援専門相談員や心理療法担当職員を中心とし、虐待事案や精神疾患を持つ親に対する、児童の家庭復帰に向けた専門的支援の強化
 - イ 里親支援専門相談員を中心とし、入所児童の里親委託に向けた交流支援・アフターケアの充実

(3) 里親制度普及啓発等の実施

- ア 里親制度普及促進・リクルート事業
- イ 里親研修・トレーニング等事業
- ウ 里親委託推進等事業
- エ 里親訪問等支援事業

(4) 虐待防止と次世代育成のための事業

- ア 電話相談「赤ちゃんほっとダイヤル」
- イ ショートステイ
- ウ デイケア
- エ プレママサロン（育児体験教室）
- オ 育児サークル「愛あいクラブ」
- カ ボランティアの受入れ
- キ 実習生の受入れ（保育士、看護師、栄養士等）

(5) 第 73 回全国乳児院協議会運営支援

令和 6 年 10 月 10 日・11 日に秋田市において開催される全国乳児福祉協議会主催の標記大会において、開催県として運営支援を行う。



クリスマス会



お食い初め

11. 評議員会の開催・監査の実施

(1) 評議員会の開催

支部、病院、血液センター、乳児院の予算・決算及び事業計画等重要事項の審議のため、評議員会を年2回開催する。

(2) 監査の実施

支部、病院、乳児院の事務・事業の適正化と効率性を確保するため、次により監査を実施する。

- | | |
|--------------|----|
| ・支部監査委員による監査 | 1回 |
| ・本社職員による内部監査 | 適宜 |
| ・監査法人による監査 | 適宜 |



評議員会

会員数（協力会員含む）・活動資金額の目標数

別紙 1

地区・分区名	会 員 数 （名）	活動資金額 （円）
秋 田 市	17,360	24,147,600
能 代 市	5,525	6,097,400
横 手 市	14,022	13,001,500
大 館 市	9,000	7,315,600
男 鹿 市	8,633	6,113,100
湯 沢 市	12,390	6,414,700
鹿 角 市	8,188	4,466,200
由 利 本 荘 市	18,853	13,897,900
潟 上 市	3,387	4,087,800
大 仙 市	18,770	14,002,300
北 秋 田 市	8,500	6,490,700
に か ほ 市	7,150	5,078,200
仙 北 市	6,742	5,368,800
小 坂 町	1,833	1,182,100
上 小 阿 仁 村	649	543,900
藤 里 町	1,030	786,000
三 種 町	3,624	3,210,900
八 峰 町	2,470	1,726,900
五 城 目 町	2,882	2,305,100
八 郎 潟 町	1,847	1,422,500
井 川 町	1,300	932,500
大 潟 村	811	592,000
美 郷 町	4,781	4,745,100
羽 後 町	4,100	2,794,300
東 成 瀬 村	730	724,300
計	164,577	137,447,400

視 聴 覚 教 材 一 覧

別紙2

1. DVD

名 称	所要時間 (分)	製作年度	備 考
日本赤十字社秋田県支部活動紹介（奉仕団員募集編（30秒・15秒）・活動資金募集編（15秒））	1	R 4 年	日本赤十字社秋田県支部の活動紹介CM
赤十字この一年 2022年度	18	R 5 年	当年度における国内外活動
赤十字この一年 2021年度	18	R 4 年	当年度における国内外活動
「災害への備え」	30	R 2 年	赤十字防災セミナー～災害への備え（地震編、大雨・台風編）の内容を紹介
「新型コロナウイルス感染症」まん延下での災害救護活動～貴島明日香の日本赤十字社レポート～	27	R 2 年	新型コロナウイルス感染症まん延下での日赤の災害救護活動
別れの乳房～97歳赤十字従軍看護婦の証言	45	R 1 年	赤十字思想の成り立ちと戦時救護として戦地に赴いた看護婦の体験談など（CNA制作）
もうひとつの終戦 ～今なお受け継がれる看護婦魂～	30×4話	H 3 0 年	赤十字思想の成り立ちと戦時救護として戦地に赴いた看護婦の体験談など（CNA制作番組）
皇后さま最後の全国赤十字大会	5	H 3 0 年	名誉総裁皇后陛下の最後のご臨席となった全国赤十字大会の様子
PANORAMA 世界におけるICRCの活動	13	H 2 5 年	赤十字国際委員会（ICRC）の活動紹介
赤十字の成り立ちと活動	5	H 2 5 年	赤十字の成り立ちを簡潔に紹介する内容
ダブルスカイ	48	H 2 4 年	献血推進映画
東日本から18ヵ月 福島 二回目の夏 ～未来を担う子供と共に～	7	H 2 4 年	福島県における東日本大震災からの復興に関する内容
赤十字とは何か その教育の原点を問う	23	H 2 4 年	石巻赤十字看護専門学校の震災発生当日の記録
東日本大震災から1年～被災者と共に希望を～	7	H 2 4 年	東日本大震災から1年経過しての日赤の活動に関する内容
石巻赤十字病院 東日本大震災初動の記録	15	H 2 3 年	宮城県、石巻赤十字病院の震災発生当日の記録
赤十字は被災者の近くに	14	H 2 3 年	東日本大震災における日赤の活動に関する内容（4月作製）
市原悦子・佐井村を行く ～仁愛の医師 三上剛太郎を訪ねて～	23	H 2 3 年	市原悦子さんが青森県佐井村、三上剛太郎を紹介
八月の二重奏	45	H 2 2 年	日赤が企画した初の献血推進映画
ミャンマー・サイクロン 中国大地震 ～緊急救援から復興支援へ～	9	H 2 1 年	両国の緊急救援活動から現在の復興支援活動を紹介
密着！災害救護訓練 ～赤十字のネットワークと機動力～	27	H 2 1 年	山形県で行われた災害救護訓練の様子。秋田県支部救護班に密着を当てた内容
明日を信じて～日本赤十字社スマトラ島沖地震・津波災害復興支援5年間の軌跡～	25	H 2 1 年	スマトラ島沖地震・津波災害から5年間の活動を紹介します
ハイチ大地震救援活動 ～国際赤十字の一員として～	5	H 2 1 年	ハイチ大地震での救援活動を紹介
スマトラ島沖地震・津波災害復興支援事業 ～4年目を迎えた復興への取り組み～	9	H 2 0 年	被災4年目を迎えた復興への取り組み
ジンバブエ・コレラ救援活動	6	H 2 0 年	ジンバブエでのコレラ救援活動を紹介
能登半島地震災害救護活動	8	H 1 9 年	能登半島地震災害における救護活動
スマトラ島沖地震・津波災害復興支援事業	16	H 1 9 年	被災3年目を迎えた現地の様子、復興支援事業の進捗状況や取り組みについて（VHSも保有）
ジャワ島中部地震災害救援活動	20	H 1 8 年	スマトラ島沖地震・津波災害からの復旧にかかる救護活動
災害で苦しむひとのために	13	H 1 8 年	パキスタン北部地震災害救援・復興支援（VHSも保有）
一人ひとりの命のために	20	H 1 7 年	新潟県中越地震とスマトラ島沖地震・津波災害における救援活動

2. 赤十字事業パネル

赤十字の誕生・日本赤十字社の誕生・赤十字の基本原則・赤十字マークの意味・赤十字国際委員会と国際赤十字、赤新月社連盟・会員制度・災害救護活動・赤十字奉仕団・看護師養成・国際活動・医療事業・血液事業・青少年赤十字・乳児院の運営・救急法・水上安全法・雪上安全法・健康生活支援講習・幼児安全法

3 災害救護活動記録パネル

東日本大震災、平成28年熊本地震災害、平成30年7月豪雨災害、平成30年北海道胆振東部地震災害、令和6年能登半島地震災害における活動の記録（日赤救護活動写真、被災地状況写真、奉仕団活動写真等）

4. YouTube アップロード動画

名 称	所要時間 (分)	製作年度	備 考
令和5年度日赤秋田県支部救護員研修会	2	R5年	救護員研修会の様子（ダイジェスト版）
服を着たまま、水に落ちたらどうする?? ～赤十字水上安全法から、命を守る方法をご紹介します!～	5	R5年	水に浮く方法や陸上から救助する知識を紹介
「赤十字キッズタウン2023」を開催しました!	10	R5年	当年度におけるキッズタウンの様子
【終活・遺贈寄付】想いを未来につなぐ遺贈寄付 ～あなたの社会貢献のかたち～	10	R4年	終活や遺贈寄付について紹介
「教えて!病院や健康のこと!」 秋田赤十字病院の専門医が分かりやすく解説!	5×4本	R4年	①病気や健康について ②めまいについて ③熱中症予防について ④新型コロナについて
日本赤十字社秋田県支部活動紹介（奉仕団員募集編 （30秒・15秒）・活動資金募集編（15秒））	1	R4年	日本赤十字社秋田県支部の活動紹介CM
ハートラちゃんワッペン&アームカバー製作!	4	R3年	青少年赤十字創設100周年事業として、ワッペンとアームカバーを共同制作した様子
継続できる社会貢献活動～富士フィルムB I 秋田株式会社様の取り組みについて～	10	R3年	「赤十字支援マーク」を活用した「売り上げに連動して寄付する」社会貢献活動の紹介
赤十字幼児安全法「子どもの応急手当について」 （気道異物除去）	8×2本	R3年	①乳児編 ②幼児編
赤十字活動の輪が広がりますように! ～赤十字活動川柳最優秀賞が決定!～	10	R3年	応募作品の中から入賞作品を紹介
「災害への備え」	30	R2年	赤十字防災セミナー～災害への備え （地震編、大雨・台風編）の内容を紹介
アームカバーを作ろう!	6	R2年	秋田市赤十字奉仕団が入院患者のために制作したアームカバーの制作方法を紹介

防災セミナー及び赤十字講習一覧

別紙 3

A 防災セミナー

防災に対する意識や災害発生時における対処方法の地域住民への普及を目的としたプログラム			
A-1	災害への備え(地震・水害)	A-4	家庭内の危険を探そう
A-2	地域で防災マップをつくろう	A-5	避難所運営を体験しよう
A-3	被災者体験談から学ぼう		

B 救急法

心肺蘇生やAEDの使用法を含む一次救命処置や包帯法など、医療を受ける前の正しい救命・応急手当と事故防止の知識の習得を目的としたプログラム			
B-1	心肺蘇生とAED	B-3	骨折の手当
B-2	きずの手当		

C 健康生活支援講習

健康増進・介護予防に関する内容、地域で行う高齢者支援活動に関する内容のプログラム 避難生活で役立つ知識や技術の習得を目的としたプログラム			
C-1	「フレイル」を予防して健康 寿命をのばしましょう	C-3	地域で支える認知症
C-2	高齢者に多い事故とその予防 と対応	C-4	今後の人生に備えて(人生会議)
		C-5	避難生活支援講習(高齢者)

D 水上安全法

溺れた人の救助法・心肺蘇生及び水の事故を防ぐための知識や技術の習得を目的としたプログラム			
D-1	水の事故と予防 (海・川・プール)	D-2	着衣泳

E 幼児安全法

子どもの成長と発達・事故と病気・看病の仕方・心肺蘇生・AEDを用いた除細動・ 気道異物除去など救命・応急手当の知識と技術の習得を目的としたプログラム			
E-1	子どもの心肺蘇生とAED	E-3	子どもの病気と看病の仕方
E-2	子どもの事故と予防	E-4	避難生活支援講習(子ども)

赤十字奉仕団、青少年赤十字加盟校(園)、赤十字活動資金協力企業や団体、町内会・自治会の場合は、原則無料で実施します。

また、ご要望に応じて、複数のプログラムを組み合わせることもできます。

組み合わせ例

○町内会のプラン → 【A-1】災害への備え + 【B-1】心肺蘇生とAED

○学校・PTAのプラン → 【B-1】心肺蘇生とAED + 【D-2】着衣泳

○保育園・幼稚園 → 【E-1】子どもの心肺蘇生とAED + 【E-2】子どもの事故と予防

日本赤十字社秋田県支部

〒010-0922 秋田市旭北栄町1番5号
 TEL 018 (864) 2731 FAX 018 (864) 6852
 URL <https://www.jrc.or.jp/chapter/akita/>
 E-mail info@akita.jrc.or.jp

秋田県赤十字血液センター

献血パークるうぷ

〒010-0941 秋田市川尻町字大川反233番186号
 TEL 018 (865) 5541 FAX 018 (865) 5585
 URL <https://www.bs.jrc.or.jp/th/akita/>

秋田赤十字病院

〒010-1495 秋田市上北手猿田字苗代沢222-1
 TEL 018 (829) 5000 FAX 018 (829) 5255
 URL <http://www.akita-med.jrc.or.jp/>

アトリオン献血ルーム

〒010-0001 秋田市中通二丁目3番8号
 (アトリオン1階)
 TEL 018 (836) 7811 FAX 018 (836) 7812

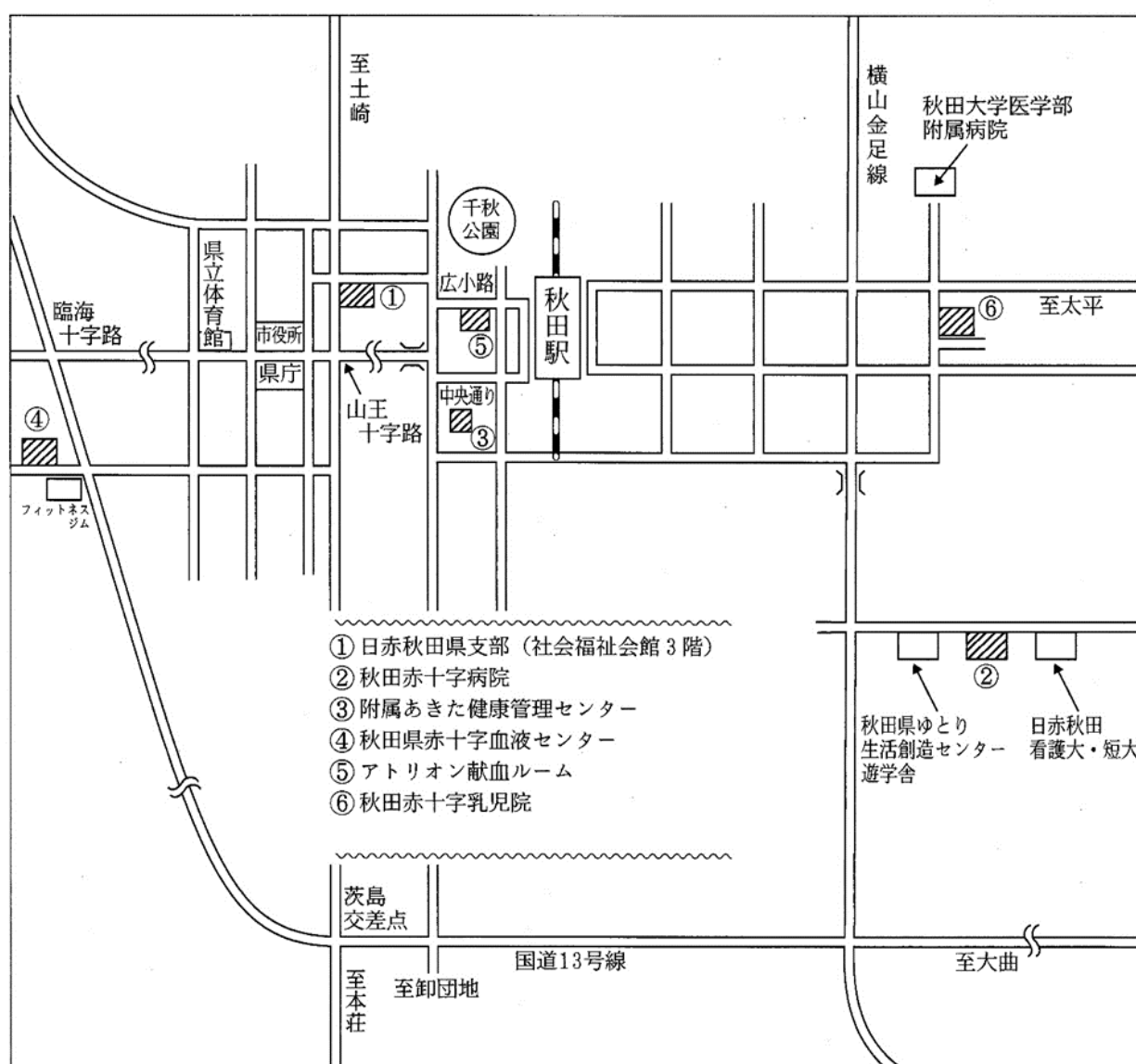
附属あきた健康管理センター

〒010-0001 秋田市中通三丁目4番23号
 TEL 018 (832) 1601 FAX 018 (832) 1603

秋田赤十字乳児院

〒010-0041 秋田市広面字釣瓶町100番地3
 TEL 018 (884) 1760 FAX 018 (884) 1762
 URL <http://www.akita-nyuji.jrc.or.jp/>
 E-mail info@akita-nyuji.jrc.or.jp

<案 内 図>



日本赤十字社の使命

わたしたちは、
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、
いかなる状況下でも、
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。

- 人 道：人間のいのちと健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努めます。
- 公 平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
- 中 立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。
- 独 立：国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。
- 奉 仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
- 単 一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。
- 世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、
人道の実現のために、
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、
人の痛みや苦しみに目を向け、
常に想像力をもって行動します。